

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人三重大学

1 全体評価

三重大学は、建学以来の伝統と実績に基づき、基本的な目標として掲げる「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す～人と自然の調和・共生の中で～」の達成を一層確固たるものにするため、その実践に努めている。第2期中期目標期間においては、幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、地域のイノベーションを推進できる人財を育成するための「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」の「4つの力」を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、英語の習熟度を向上させる前期集中型カリキュラムを実施するとともに、医学部医学科の授業である「医療と社会」及び「医学概論」において、看護師等多職種の業務やチーム医療に学ぶ、多職種連携教育を導入するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

大学改革推進戦略会議の下に企画・評価・広報担当理事や副学部長・副研究科長等を構成員とする「人事制度ワーキンググループ」を設置し、学内合意を得易くしている。また、優れた人材の確保、流動性向上及び組織の活性化を目的とした年俸制を導入するとともに、クロスアポイントメント制度の導入やテニユアトラック制度の充実等について検討を進めている。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 各部局と本部組織との一体的かつ機能的な運営体制の構築

役員及び部局の長等をメンバーとする「大学改革推進戦略会議」を設置し、大学改革を全学的に推進する体制を整備しており、三重県からの要望を踏まえた「三重大学機能強化構想」を各部局と本部組織が一体となって策定するなど、大学改革を進めている。

○ 様々な取組による男女共同参画の推進

以下の取組により男女共同参画を推進し、女性教員比率が16.2%（対前年度比1.6ポイント増）となっている。

- ✓ 「三重大学ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック」の改訂版を3,800部作成し、教職員に配布
- ✓ 「男女共同参画基礎」授業を開講し、その受講生を対象に、男女共同参画推進学生委員会が意識調査を実施
- ✓ 三重県知事を招いて「三重大学男女共同参画フォーラム」を開催
- ✓ 三重県知事を立会人として学長が「イクボス宣言」を実施

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 広報戦略の推進によるウェブサイトへのアクセス増

広報戦略会議においてより効果的な広報戦略を策定し、三重大学研究情報ウェブサイト「三重大学Rナビ」や学長ブログ「学長室の窓から」を開設するなどの広報活動を行った結果、ウェブサイトへのアクセス数が増加（対前年度比で12万件増）している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていることを総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 「スマートキャンパス事業」の水平展開

エネルギーを有効に活用しながら、学内の多様な組織から排出される二酸化炭素を削減させる「スマートキャンパス事業」について、展示会・講演会等にて成果・手法等を発表・公表することにより、他大学や企業等において同様の取組が実施されるように活動を展開している。

○ 情報セキュリティの向上に向けた取組

マイナンバーシステム導入のため、インターネットから隔離したネットワークを構築するとともに、USBメモリからの情報漏えい防止及び重要データのバックアップ先提供のためのオウクラウドシステムを導入している。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 英語の習熟度を向上させる新しいカリキュラムの構築

英語の習熟度を向上させる新しい教養教育カリキュラムとして、前期集中型カリキュラムを実施することにより、再履修対象者が対前年度比で96名減少しているほか、成績優秀者には「英語特別プログラム」を実施するとともに、シェフィールド大学（英国）への短期海外研修を実施している。

○ 教員派遣と拠点設置による地方創生の推進

仕事の創生に向けた雇用対策などを課題とする「まちづくり政策監」として地域戦略センターの教員を南伊勢町に派遣するとともに、学内に南伊勢町の分室「南伊勢町創生戦略室」を設置し、大学の地域戦略センターや社会連携部門等と密に連携するなど、地方創生を推進する体制を構築している。

○ 図書館職員による授業と連携した情報リテラシー教育の実施

図書館職員による情報リテラシー教育を、授業と連携で実施（図書館ツアー144回：1,334名・講義70回：2,475名）するとともに、図書館独自の書庫ガイダンス（41回：78名）や講習会（12回：89名）を行っているほか、教育・学習支援機能向上のため、図書館SDやFDを実施している。

○ 医学科における多職種連携教育の導入

医学部医学科の授業である「医療と社会」及び「医学概論」において、看護師等多職種の業務やチーム医療に学ぶ、多職種連携教育を導入するとともに、これら授業の内容について検討を行っているほか、他大学との合同ワークショップを企画するなど、多職種連携に係る内容を充実することとしている。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 県内の研修医教育の充実に向けた取組

研修医教育に関する病院間・指導医間の格差を解消し、三重県の研修の質の均てん化とボトムアップを図ることを目的として、臨床研修キャリア支援センターとMMC（Mie Medical Complex：三重県の全ての初期臨床研修病院が主となり運営しているセンター）の連携により、県内の研修医教育の充実に向けた取組を実施している。

○ 救急医療の重要性を周知するための取組

研修医が中心となって、臨床研修におけるプライマリーケア、充実した救急医療教育等をアピールするビデオを作成し、学内及び学生ホール等にて通年の定期的上映を行っているほか、ウェブサイト等へのアップロードを行うなど広報を強化することにより、一般市民への救急医療の重要性を周知している。

(診療面)

○ 小児在宅医療の充実・向上に資する取組

小児在宅医療を充実・向上させるため、訪問看護師研修、相談支援専門員研修会、福祉事業所への小児在宅啓発研修会等を開催、または開催に協力し、県全体の小児在宅医療の技術向上に貢献している。

○ 患者満足度の向上に向けた取組

患者満足度調査において、診察や会計の待ち時間の短縮に係る要望が数多く寄せられていることを受け、新外来棟開院の際に各フロアに受付窓口を設けるとともに、予約センターを設置するなど、患者サービスの向上に取り組んだ結果、患者満足度調査では、待ち時間が平成26年度と比較して30分未満が増加し、1時間以上が減少するなど、患者満足度の向上につながっている。

(運営面)

○ 病院執行部による迅速な意思決定に向けた取組

病院長を中心に病院執行部で中期的な重要課題について毎月1回検討し、新たな診療部門の設置や人員配置計画、病院予算に関するマネジメント、施設スペースの問題等の検討を行っている。現状を正確に把握できることで、より迅速な意思決定が可能となり、膠原病・リウマチセンターの設置決定に至るなどの成果を上げている。